

事業報告書

事業名 生ごみ(ぼかし)堆肥をつくってみよう！実験



9 / 1 6 説明会



1 1 / 1 9 ふるさとまつりアピール



畑に埋める



コンポスタへ



土に返ったか？



元肥に 1



元肥に 2

1 実施団体 霞川くらしの楽校

2 担当課 清掃リサイクル課

3 実施時期 9月16日～3月31日

4 参加者 9月16日 説明会 16名

モニター登録 10名

後日 モニター登録 1名

11月19日 ふるさと祭り モニター登録 4名

他 説明を聞いて冊子持ち帰り数名

5 実施場所 大門市民センター & 霞川くらしの楽校の畑（城山橋
もと） & 各参加者の自宅および畑

6 事業の目的

台所の片隅で2つの容器を置いて水切りをして（可能ならば細かくして）入れて、ぼかしを振りかけるを繰り返し、いっぱいになってから1週間程度寝かせて土に埋めるという方法を説明して、実際に3か月間、生ごみのぼかしつくりと土に返すことをモニターさんにやっていただき、データを集めて、重量として大きい生ごみの減量につなげる。また生ごみを介して、畑（農家）と市民のつながりをつくる可能性をさぐる。

7 役割分担

・団体の役割

ぼかしを利用した生ごみのぼかしあえつくりの説明（説明小冊子の作成、説明会）、密閉容器等、ぼかしの準備配布。アンケートの作成、配布回収集計。畑で土で生ごみぼかしあえの受け入れ・交流。

・担当課の役割

説明会の設定、広報、配布物についての相談、まとめ

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- 1, 生ごみを土に戻す方法のひとつで、ぼかしや密閉容器などは市販されているが、「初めて知った」「以前に勧められてやってみたが、挫折した」というモニター登録者も、土に返す畑や庭があれば、意外に楽しくできた、継続していききたいという感想が多く聞かれた。
- 2, 説明会のために作成した資料（小冊子）を配布するなどして、ふるさと祭りでアピールさせていただいたが、生ごみ減量に関心をもっている市民は少なくないことを実感できた。
- 3, 個人の庭とは違い、畑地帯や自然豊かな（青梅市の特徴）環境で生ごみを埋めると、野生動物に掘り返される被害もあり、それにはコンポストで土とサンドイッチにしてしばらく寝かせて堆肥化をすすませてから畑に戻すとよいということが分かった。
- 4, 生ごみのぼかしあえを埋める畑や庭がそれほどない方が、継続的に取り組めるようにするためには、密閉容器から回収することができれば、取り組める人は格段に増える可能性あり。（実際に 1 名回収中、）
- 5, 実際にコンポストで生ごみのぼかしあえを受け入れてみて、この方法ならば、庭や畑のある方とご近所さんとの交流で、生ごみを土に返すことができるのではないかと実感できた。（畑の近所の方は畑へ持参継続）

9 目標達成

事業の目標：

- 1, 生ごみ（ぼかし）堆肥づくりに取り組んだ感想や意見、可能な限り温度や重量などを集めて、改善点を導きだしたり、さらなる取り組みへの土台となる報告書を作成する。
- 2, 畑へぼかしあえを持ち込む機会に交流したり、報告会で結果をふまえて、生ごみの減量のためにできることをいっしょに探る機会や、

ごみ減量に関心のある人の輪を醸成する。

目標の達成具合：

- 1, 説明会は、ぼかしの性質や生ごみをどのようにぼかしあえにして土に返すか概ね理解していただけた。また、ふるさとまつりなどの短時間の説明でも冊子を読み返していただいたりして、おおよそ理解いただけた。
- 2, モニター登録者15名（おひとり個人理由で離脱）のうち、11名の方から、3か月間取り組んでいただいたアンケートを回収することができた。また、メッセージや電話のやり取りで、特に取り組み初期は、やってみなければわからない、頭に入らなかった・・・と相談も少なくなった。詳しくは報告書を作成しましたので、ご覧ください。
- 3, ほとんどのモニターさんが、畑や自宅の庭に埋めることができる方で、それでもわざわざ霞川くらしの楽校の畑まで来ていただいた方とは交流できましたが、お忙しい方も多く報告会まではできませんでしたが、返していただいたアンケートに、改善点なども入れて、情報共有できるように報告書を作成してモニターさんに送付できました。
- 4, もやすごみの減量という視点では、3カ月で推計200キロくらいの減量になったのではないかとと思われる。

10 事業の実施内容

- 生ごみのぼかしあえのつくり方、土に返す方法などをまとめた小冊子や記録用紙などを作成
- 大門市民センターでの説明会を設定、広報、資材などの購入準備、説明会、モニター登録の受け付け
- 説明会で足りなかった資料や説明の不十分だった畑の場所の地図に、気軽に相談くださるようお手紙を郵送
- モニター期間中土曜日の午後1時間程度（季節により時間ずらす）畑で、受け入れ、交流、相談、ぼかしの配布。（ショートメールや電話でお知らせ）
- 畑での配布は12月に入って2回大門市民センターで行う。

- アンケートの作成、配布、回収、集計。
- 情報共有のための報告書の作成
- 報告会は実施せず

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	3	3
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・ 団体側

☆ 季節：ほかしの中の菌も生き物であり、生ごみもまさに生もの。今回は、10月～12月という扱いやすい、また畑も比較的空いている時期に実施しましたが、季節が異なれば、やりづらいことや気づきから改善のアイデアが生まれる可能性もあります。

☆ 容器の準備：密閉容器、特に汁を抜く栓のある専用バケツ（1980円）2つは値がはりますが、準備保管しておくことの負担が大きかったです。また、急に1週間にどれだけの容量があれば？とだれもが想像できるわけではない（実際に家に持ち帰ってから交換や、やってみてから小さい方の容器でも大きすぎるからと返却いただいた方あり）ので、ビニール袋でやってみてから容器を選んでもらうか、容器は見本とし

てみるだけで、各自合うものを購入いただいてもよいのではないかと思います。

- ☆ 畑の受け入れ：時間を決めて待っているというより、受け入れが必要であれば、個々に対応するでよかったと反省。
- ☆ 機会があれば、「生ごみを燃やさないで土に返すこんな方法もありますよー」と、店頭やおまつりで場所を設定できれば、アピールにでかけることは、時間があれば可能かもしれません。
- ☆ 一度に多くの方に説明しても、相談など受け入れ対応が厳しくなってしまうという心配はあります。（やってみないと・・・と、初期のフォローや実施していく途中での相談大切）
- ☆ 広～い青梅市で、畑や余裕のある庭をお持ちでない方が、継続的に生ごみのぼかしあえをつくっても土に返したり、できたぼかしあえを回収して土に返す方策が必要。
- ☆ 野生動物の被害は、放置しておいてはよくないと思いますが、その点詳しい方に説明伺いたいです。
- ☆ 今回、報告会や交流などできなかったが、ごみ減量の視点からも、継続こそ大切で、トラブル（私も）事例やヒント、つぶやき、アイディアや、今度ここで説明しますなどのお知らせを書き込めたり、つぶやけたりできるものがあると、紙の報告書は必要なくなると思いますが、団体にはそういうノウハウがありません。

• 担当課側

今回の市民提案協働事業では、新たな生ごみの減量効果が期待できる方法を知ることができた。ごみの減量を推進していくためには、市民の協力が不可欠であり、今回のように、生ごみ減量に関心の高い市民が参加し、活動体験や交流をすることの必要性も改めて認識できた。今後のごみ減量施策に繋げていきたい。

13 その他

詳細は、報告書をご参照ください。

事業経費については、

少量（現在の家族構成などを考え直し）容器も合わせて準備し、汁抜き栓がない分を鉢底メッシュを裁断して付けることで、経費削減

ほかしについては、量販店の798円でなくても園芸センターで販売されているほかし（210円）で、十分できることを確かめて切り変えたことで大きく経費削減。

などがおもな要因で、予算額よりかなり少なくてすみしました。

交流会のためにという目的で300円/人集めた参加費は、自宅で処理される方、考えたより遠方の方の登録が多く、あまり交流会にはなりませんでしたが、郵送費通信費などに回させていただきました。

この事業ばかりではありませんが、

容器の見本やパネルなどを、市役所1階（可能ならば、や市民センター図書館など）で展示し、市民にアピールするなど目に見える呼びかけが、あるとよいと思います。

市民提案型・行政提案型協働事業について、

団体提案であるということは、予め公募が4月にあるということを知っていて準備できる団体しか応募できない期間設定であることが、とても残念です。民主的な運営がなされている団体ほど、団体の決定には数カ月の時間を要するもの。前もって大まかな提案材料はあったものの、実際には応募に当たって、実際には1晩で作成した提案書で団体討議を経て、数日で予算見積もりまでしました。急ぎ作成した提案や見積もりを見直しながらの実施でした。

市民のつぶやきをどうやったら事業に結びつけられるか、ボランティア団体連絡会などで、共有することは必要か思いますし、広く市民に公開すべきと思います。